

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100120		
法人名	(有) 長野カイゴサービス		
事業所名	桜の園グループホーム		
所在地	長野市桜新町724番地		
自己評価作成日	平成22年11月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度は、運営推進会議等でご提案をいただき、地域との交流の第一歩を踏み出しました。今年度は、地区の芸能音楽祭や文化祭、老人のお楽しみ会等にも参加させていただき、近所の方々との交流も増してきました。利用者さんのこと、施設のことを、理解いただける桜の園を目指し皆で頑張っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100120&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から3年が経過して運営体制も整い、同時に取り組むべき課題も明確になり、理念に込めた「心から愛情を持って」、「利用者に喜び多き日々を」、「心身の安全を守る」という思いをゆくりと実現していく時期となっている。運営推進会議を通じての地域との着実なつながり、介護計画のモニタリング・評価・再アセスメントの丁寧な取り組み、隣接病院との協力関係による医療面での安心感、重度化や終末期への積極的な関わり、職員の労働環境への配慮など事業所を動かす基盤への対応が行き届いている。一方、課題としては全職員の参加する職員会議の実施や研修への参加、ハード面での改善などがあるが、利用者のより暮らしやすい環境作りのため鋭意検討中であることを伺った。隣接する病院では実現することが難しかった認知症を有する利用者に寄り添った暮らしのある介護を形にしようと真摯に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年12月3日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2階)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着、理念共有し介護をしています。	利用者に提供する暮らしのあり方、それを実現するための職員の姿勢、地域との繋がりを盛り込んだ事業所独自の理念を掲げている。理念が誰でも目に付くよう、各ユニットの入り口に額に納めて、面会者に理解してもらおうと共に、職員への共有化を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来3年たち、少しずつ地域との交流が始まって、神楽も施設へ来たり舞踊音楽の会にも参加した。地域との関係を深めつつある。	地域住民との交流を通して、地域と繋がりながらの暮らしを形にしようとしている。地区神社の獅子舞の依頼、文化祭や老人のお楽しみ会への参加、事業所で行うエレクトーン演奏などへの招待、話し合いの会などのボランティアの受け入れ、近くの公園での散歩途中の交流など積極的に地域とのふれあいを進めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通して認知症を理解し、暖かく交流してもらう。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会にあたり介護サービスの実際を評価報告し、さらなる向上を目指して努力をしていきたい。	地域(区長・民生児童委員)、行政(包括支援センターも出席)、ご家族の参加の下、事業所の現状や外部評価などを透明性を持って議題として提出し、意見交換が行われている。21年度は4回開催したが、2か月に1度の開催に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	未だわからないことが多く、ご指導ご協力が必要で、教わり聞きながらやっていきたい。いまだうまく行っていないが、少しずつ増やしていく予定。	運営推進会議や介護認定更新、実地指導の折に、事業所の現状を理解して頂けるよう努めている。行政の地域密着型事業所との話し合いなどの機会を活用してさらに協力関係が深まるよう取り組みを検討している。	

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準をよく理解し、具体的な事項について、工夫を繰り返している。	身体拘束をしないケアにより、抑圧感のない暮らしを支援していくことについての職員の共有認識は出来ている。その裏付けとなる、身体拘束や虐待防止の研修やマニュアルの整備が急務となっていたが、12月中旬には実現する運びになることを伺った。玄関は施錠していないが、業務の状況により、職員の目が行き届かなくなる場合には、中扉を施錠することはある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では虐待はないと思っているが、見過ごしているか、絶えず反省している。職員が叩かれたり暴力を受けることが悩みである。経験するたびに介護方法を反省している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の問題は法律そのものに未だ欠点がある様な気がするがもっと勉強が必要な気がする。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については問題も特にはなく、説明や納得も十分出来ていると思います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に問題もなく、小さなことから、その都度解決し、反映を図っている。	面会時や年1回の家族会を通じて、ご家族等の思いや意向を聞いている。又、廊下の壁に行事や日頃の様子を伝える写真が貼られていて、ご家族などにさりげなく利用者の様子を伝えている。定期的に日頃の様子を伝える写真入りのたよりを年2回は発行していく計画であることを伺った。信頼関係を築いて、ご家族が本当の思いを吐露できる場面を作るよう努力している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小人数の職場で、意見や提案の疎通性は良好と思われる。	管理者との関係、職員同士、共に良好なコミュニケーションは取れている。勤務表の希望の取り入れ、悩みなどの相談の受け入れなどコミュニケーションを支える取り組みをしている。	全職員が集まる会議の機会がなく、それに代わる機会を模索しているが、月1回は直接顔を合わせての職員会議を開催することを期待します。情報の共有化、職員の思いを聞く機会、研修の場など各種の要素を取り込めるので、これまで実現できなかった原因を精査して開催に向けて努力されることを望みます。

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が少ないので、研修会への参加のときは派遣を頼んで、受けさせたいと考えています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまりやっていない。今後交流したい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心がけています。上手く行く人もあるし、行かない人もあり、さまざまである。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	耳を傾け信頼関係を大事にしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時を中心にまず考えて、だんだんに、修正していきます。なかなか機会が乏しい。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同志的考えは、難しい考えですが、そのように努力しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も色々で、支えてあげたり、支えてもらったり、ともに協力して支えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が切れないように努力しています。生活の場が違うので難しい。	ご家族以外の方が訪ねてくることは少ないが、教会で知り合った方が訪ねて来たり、ご家族が墓参りや美容院に連れて行くことはあり、事業所としては、これまでの暮らしが継続出来るよう支援していく姿勢である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は色々な関係を作りますがそれを大切に支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時を中心にまず考えて、だんだんに、修正していきます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向、希望を大事にしてやっています。	基本情報を土台にして利用者の生活歴や思い・望みを把握するよう努めている。寛いでいる時や風呂の時などに利用者は思いを言うことが多いが、楽しくない時に吐露する言葉に、利用者の本心があったりするので、聞き洩らすことのないよう努め、その思いを実現するよう取り組んでいる。	

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり暮らし方の把握に努力しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。それに合わせた介護を心がけています。少しずつ積み重ねていきたい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成するように努力しています。	計画作成担当者が中心になり、利用者やご家族の思いを聞いて介護計画を作成している。月に1度「月刊評価表」によりサービスの実施状況を把握し、設定期間毎にモニタリング・評価を行い、心身の状況変化に応じての見直しも行っている。「介護計画モニタリング表」を使い、目標の達成度や満足度を把握して、介護計画の評価をして次の計画に繋げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し情報交換、計画を立てています。共有するように努力しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心がけていますが難しく、少しずつ実現していきたいと思っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源まで手が届かない状況です。心がけていきます。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	非常にスムーズに上手く行っていると思っています。	利用者やご家族が希望して、内科系は協力医療機関がかかりつけ医となり、医療面の良好な協力関係が築かれているので、ご家族の安心を得ている。歯科などは利用者が希望するそれぞれの医院である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に上手く行ってはいませんが協力病院の医師が努力しカバーしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係は非常にうまくいっている。協力できています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だわからないことが多く、病状によって、病院に入院したりしていますが、うまくいっている。	看取りについての指針が近々出来あがる予定であることを伺った。基本的にはご家族の希望に応じて対処する態勢であるが、医療的対応が濃厚であれば、医療設備が充分整備されていないので、事業所での対応が出来ない場合もある。重度化しても、終末期になっても出来るだけ住み慣れた事業所で過ごせるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練をしているが、まだ未熟で、実行を少しずつ重ねて経験しながら身につけていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	未だ不完全である。さらに訓練と工夫が必要。	昼間想定訓練(通報・避難誘導・消火)を1回行った。避難経路図・自動通報装置・連絡網による職員への通報訓練・隣接する病院職員の協力体制は整っている。23年度にスプリンクラーを設置する計画であることを伺った。	2階に1ユニットあり、階段による避難となっているので、年2回(昼・夜想定)全職員が参加しての訓練を実施することを期待します。1度に9名の利用者を避難させることは困難も多いので、1次避難場所、2次避難場所の有効な設定など、ハード面も含めて検討し、より確実に命を守る体制を整えることを望みます。

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	未だ不完全である。努力が必要。	接遇やプライバシーへの配慮は、サービス提供現場では各職員の持ち前の資質などにより実践されている。研修等を重ねることによる職員の意識の向上への取り組みは行われていない。気付かずにしてしまう誇りなどに配慮を欠いた言動に対しては管理者から注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者が、気兼ねなく生活している感じである。しかし絶えず反省が必要。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように心がけ努力しているつもりです。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あまり支援していない状況です。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	とくに盛んではないが一部の人がやっている。	食材調達と献立作成は業者委託されている。届けられた食材で調理するが、利用者の中には重度化している方も居るので、心身の状態により出来る範囲でお手伝いをしてもらっている。おやきやホットケーキなどは食材を買いに行き、一緒に作ることもある。1階のユニットは介助者が多いので、職員と一緒に食事は出来ないが、2階は職員と一緒に食している。	食事の楽しみや喜びは馴染んだ物や郷土ならではの料理を食する時であるので、週の中で何回か、利用者と職員で相談して作る献立を導入して懐かしさや楽しみとなる機会を設けることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大体、出来ていると思われる。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特別機嫌が難しい人以外は実施。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なかなか、地域資源まで手が届かない状況です。心がけていきます。難しい人もいます。	排泄の自立支援は、その経過の中で失敗もあるので、利用者が不安になったり、誇りを傷つけることもあるが、トイレを利用した排泄を介護の基本と位置付けて、尿意や便意のある利用者へはトイレ誘導や声掛けを行い、リハビリパンツから布パンツへ移行できるように取り組んでいる。尿意や便意が無くおむつをしている方が半数近くあり、おむつを如何に外すかが事業所の課題であり鋭意検討中である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今のところ、便秘は日頃困っていない。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体出来ている。	入浴は1人週2回、1日3人の方が午後に行っている。1階のユニットは重度者が多く、寝浴を従来の個浴の浴槽の横に設置して対応している。その為、ゆったりと入浴を楽しむ空間にはなっていない。浴室の改善を検討中であることを伺った。ゆず湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大体出来ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大体出来ている。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者の得意とすること、喜ぶことなど活かして支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮し皆で散歩に行っている。とくに一人だけではやらずに天気に従いなるべく大勢仲良く出かけていく。	今年度は21年度に行われたような遠出の外出は出来ていなかったが、車の通行量の少ない住宅地にある事業所周辺の散歩や近くに公園への散策、ゴミ出しを兼ねた外出など、日常的に戸外に出て、気分転換をしたり、五感の刺激を得たりしている。散歩中に地域の方との会話もあり、良い交流が出来ている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を間違いなく勘定出来る人以外は所持しない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望者がいないまま、特には勧めていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮をしています。	台所と居間兼食堂は同じフロアーにあるが、区切られており、調理の手伝いは食堂のテーブルを活用している。採光も良く、冷暖房完備であり、田舎暮らしの空間とは異なるが、現代風の快適な居住空間となっている。廊下には外出や日頃の暮らしの写真が貼られ、利用者や面会者に話の糸口となる話題を提供している。廊下隅の空間を居間にして、ソファーやテーブルを置き、少人数で寛げる利用者の憩いの場所になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしています。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしています。しかし各人の思いははっきり判りません。	ベッド、寝具、物入れ棚は事業所の備え付けである。それ以外は利用者ご家族が馴染みの物を入れて自由に配置している。藤の椅子、写真、衣類の収納ケース、机、椅子など居心地よく過ごせる空間となるよう利用者毎に工夫が施されていた。居室も冷暖房完備である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な仕掛けはありません。個人の能力、好みに合わせるように努力しています。	/	/

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着、理念共有し介護。	利用者に提供する暮らしのあり方、それを実現するための職員の姿勢、地域との繋がりを盛り込んだ事業所独自の理念を掲げている。理念が誰でも目に付くよう、各ユニットの入り口に額に納めて、面会者に理解してもらおうと共に、職員への共有化を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来3年たち、少しずつ地域との交流が始まって、神楽も施設へ来たり舞踊音楽の会にも参加した。地域との関係を深めつつある。	地域住民との交流を通して、地域と繋がりがながらの暮らしを形にしようとしている。地区神社の獅子舞の依頼、文化祭や老人のお楽しみ会への参加、事業所で行うエレクトーン演奏などへの招待、話し合いの会などのボランティアの受け入れ、近くの公園での散歩途中の交流など積極的に地域とのふれあいを進めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通して認知症を理解し、暖かく交流してもらおう		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会に当介護サービスの実際を評価報告し、さらなる向上を目指して努力をしていきたい。	地域(区長・民生児童委員)、行政(包括支援センターも出席)、ご家族の参加の下、事業所の現状や外部評価などを透明性を持って議題として提出し、意見交換が行われている。21年度は4回開催したが、2か月に1度の開催に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	未だわからないことが多く、ご指導ご協力が必要で、教わり聞きながらやっていきたい。	運営推進会議や介護認定更新、実地指導の折に、事業所の現状を理解して頂けるよう努めている。行政の地域密着型事業所との話し合いなどの機会を活用してさらに協力関係が深まるよう取り組みを検討している。	

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準をよく理解し、具体的な事項について、工夫を繰り返している。	身体拘束をしないケアにより、抑圧感のない暮らしを支援していくことについての職員の共有認識は出来ている。その裏付けとなる、身体拘束や虐待防止の研修やマニュアルの整備が急務となっていたが、12月中旬には実現する運びになることを伺った。玄関は施錠していないが、業務の状況により、職員の目が行き届かなくなる場合には、中扉を施錠することはある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では虐待はないと思っているが、見過ごしているか、絶えず反省している。職員が叩かれたり暴力を受けることが悩みである。経験するたびに介護方法を反省している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の問題は法律そのものに未だ欠点がある様な気がするがもっと勉強が必要な気がする。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については問題も特にはなく、説明や納得も十分出来ていると思います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に問題もなく、小さなことから、その都度解決し、反映を図っている。	面会時や年1回の家族会を通じて、ご家族等の思いや意向を聞いている。又、廊下の壁に行事や日頃の様子を伝える写真が貼られていて、ご家族などにさりげなく利用者の様子を伝えている。定期的に日頃の様子を伝える写真入りのたよりを年2回は発行していく計画であることを伺った。信頼関係を築いて、ご家族が本当の思いを吐露できる場面を作るよう努力している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小人数の職場で、意見や提案の疎通性は良好と思われる。大きな問題はなるべく会議で徹底をしている。	管理者との関係、職員同士、共に良好なコミュニケーションは取れている。勤務表の希望の取り入れ、悩みなどの相談の受け入れなどコミュニケーションを支える取り組みをしている。	全職員が集まる会議の機会がなく、それに代わる機会を模索しているが、月1回は直接顔を合わせての職員会議を開催することを期待します。情報の共有化、職員の思いを聞く機会、研修の場など各種の要素を取り込めるので、これまで実現できなかった原因を精査して開催に向けて努力されることを望みます。

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が少ないので、研修会への参加のときは派遣を頼んで、受けさせたいと考えています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまりやっていない。今後交流したい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心がけています。上手く行く人もあるし、行かない人もあり、さまざまである。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	耳を傾け信頼関係を大事にしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時を中心にまず考えて、だんだんに、修正していきます。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同志的考えは、難しい考えですが、そのように努力しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も色々で、支えてあげたり、支えてもらったり、ともに協力して支えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が切れないように努力しています。	ご家族以外の方が訪ねてくることは少ないが、教会で知り合った方が訪ねて来たり、ご家族が墓参りや美容院に連れて行くことはあり、事業所としては、これまでの暮らしが継続出来るよう支援していく姿勢である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は色々な関係を作りますがそれを大切に支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時を中心にまず考えて、だんだんに、修正していきます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向、希望を大事にしてやっています。	基本情報を土台にして利用者の生活歴や思い・望みを把握するよう努めている。寛いでいる時や風呂の時などに利用者は思いを言うことが多いが、楽しくない時に吐露する言葉に、利用者の本心があったりするので、聞き洩らすことのないよう努め、その思いを実現するよう取り組んでいる。	

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり暮らし方の把握に努力しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。それに合わせた介護を心がけています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成するように努力しています。	計画作成担当者が中心になり、利用者やご家族の思いを聞いて介護計画を作成している。月に1度「月刊評価表」によりサービスの実施状況を把握し、設定期間毎にモニタリング・評価を行い、心身の状況変化に応じての見直しも行っている。「介護計画モニタリング表」を使い、目標の達成度や満足度を把握して、介護計画の評価をして次の計画に繋げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し情報交換、計画を立てています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心がけていますが難しく、少しずつ実現していきたいと思っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源まで手が届かない状況です。心がけていきます。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	非常にスムーズに上手く行っていると思っています。	利用者やご家族が希望して、内科系は協力医療機関がかかりつけ医となり、医療面の良好な協力関係が築かれているので、ご家族の安心を得ている。歯科などは利用者が希望するそれぞれの医院である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に上手く行ってはいませんが協力病院の医師が努力しカバーしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が近くでもあることからうまくいっている。研修等もお願いした。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だわからないことが多く、病状によって、病院に入院したりしています。	看取りについての指針が近々出来あがる予定であることを伺った。基本的にはご家族の希望に応じて対処する態勢であるが、医療的対応が濃厚であれば、医療設備が充分整備されていないので、事業所での対応が出来ない場合もある。重度化しても、終末期になっても出来るだけ住み慣れた事業所で過ごせるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練をしているが、まだ未熟で、実行を少しずつ重ねて経験しながら身につけていきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	未だ不完全である。さらに訓練と工夫が必要。	昼間想定訓練(通報・避難誘導・消火)を1回行った。避難経路図・自動通報装置・連絡網による職員への通報訓練・隣接する病院職員の協力体制は整っている。23年度にスプリンクラーを設置する計画であることを伺った。	2階に1ユニットあり、階段による避難となっているので、年2回(昼・夜想定)全職員が参加しての訓練を実施することを期待します。1度に9名の利用者を避難させることは困難も多いので、1次避難場所、2次避難場所の有効な設定など、ハード面も含めて検討し、より確実に命を守る体制を整えることを望みます。

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	未だ不完全である。努力が必要。	接遇やプライバシーへの配慮は、サービス提供現場では各職員の持ち前の資質などにより実践されている。研修等を重ねることによる職員の意識の向上への取り組みは行われていない。気付かずにしてしまう誇りなどに配慮を欠いた言動に対しては管理者から注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者が、気兼ねなく生活している感じである。しかし絶えず反省が必要。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように心がけ努力しているつもりです。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	余り支援していない状況です。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	とくに盛んではないが一部の人がやっている。	食材調達と献立作成は業者委託されている。届けられた食材で調理するが、利用者の中には重度化している方も居るので、心身の状態により出来る範囲でお手伝いをしてもらっている。おやきやホットケーキなどは食材を買いに行き、一緒に作ることもある。1階のユニットは介助者が多いので、職員と一緒に食事は出来ないが、2階は職員と一緒に食している。	食事の楽しみや喜びは馴染んだ物や郷土ならではの料理を食する時であるので、週の中で何回か、利用者と職員で相談して作る献立を導入して懐かしさや楽しみとなる機会を設けることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大体、出来ていると思われる。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特別機嫌が難しい人以外は実施。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なかなか、地域資源まで手が届かない状況です。心がけていきます。難しい人もいます。	排泄の自立支援は、その経過の中で失敗もあるので、利用者が不安になったり、誇りを傷つけることもあるが、トイレを利用した排泄を介護の基本と位置付けて、尿意や便意のある利用者へはトイレ誘導や声掛けを行い、リハビリパンツから布パンツへ移行できるように取り組んでいる。尿意や便意が無くおむつをしている方が半数近くあり、おむつを如何に外すかが事業所の課題であり鋭意検討中である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今のところ、便秘は日頃困っていない。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体出来ている。	入浴は1人週2回、1日3人の方が午後に行っている。1階のユニットは重度者が多く、寝浴を従来の個浴の浴槽の横に設置して対応している。その為、ゆったりと入浴を楽しむ空間にはなっていない。浴室の改善を検討中であることを伺った。ゆず湯などの季節感のある楽しみも取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大体出来ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大体出来ている。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者の得意とすること、喜ぶことなど活かして支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮し皆で散歩に行っている。とくに一人だけは、やっていない。	今年度は21年度に行われたような遠出の外出は出来ていなかったが、車の通行量の少ない住宅地にある事業所周辺の散歩や近くに公園への散策、ゴミ出しを兼ねた外出など、日常的に戸外に出て、気分転換をしたり、五感の刺激を得たりしている。散歩中に地域の方との会話もあり、良い交流が出来ている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を間違いなく勘定出来る人以外は所持しない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望者がいないまま、特には勧めていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮をしています。	台所と居間兼食堂は同じフロアーにあるが、区切られており、調理の手伝いは食堂のテーブルを活用している。採光も良く、冷暖房完備であり、田舎暮らしの空間とは異なるが、現代風の快適な居住空間となっている。廊下には外出や日頃の暮らしの写真が貼られ、利用者や面会者に話の糸口となる話題を提供している。廊下隅の空間を居間にして、ソファーやテーブルを置き、少人数で寛げる利用者の憩いの場所になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしています。		

外部評価結果(桜の園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしています。	ベッド、寝具、物入れ棚は事業所の備え付けである。それ以外は利用者ご家族が馴染みの物を入れて自由に配置している。藤の椅子、写真、衣類の収納ケース、机、椅子など居心地よく過ごせる空間となるよう利用者毎に工夫が施されていた。居室も冷暖房完備である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な仕掛けはありません。		